

2026.04.05.

「あなた方に平和があるように」

旧約 詩編第122編1～9節

新約 ヨハネによる福音書20章19～23節

1. はじめに

今日はイエス様が復活されたことを覚えて、イースターを記念する礼拝を守っています。イースターと言えば「イースター・エッグ（イースターの卵）」や「イースター・バニー（イースターのウサギ）」を思い浮かべる人もいるかも知れません。イースター・エッグというのは、殻を破ってヒヨコが出てくる、新しい命が出てくる、それがイエス様の復活のイメージと重なるということでイースターには卵を食べたり、色を付けた卵を飾ったりするようになったのでしょう。また、ウサギについては、ウサギが一度にたくさんの子どもを産むことから、新しい命のイメージつながりでイースターにはウサギが飾れたりするようになったようです。この二つを組み合わせ、イースターにはウサギが卵を運んでくるという話もあるようですが、どれも聖書には全く根拠がありませんので、長い間にそういう習慣・風習が行われるようになったということでしょう。もう40年近く前のことですが、隠しておいてイースターエッグを皆で探すということをしたことがありました。でも、一個出てこない。2週間、3週間すると、ある部屋からとてもくさい匂いがする。何だか分かりません。しかし、あまりに臭いので探してみると、探しそびれたイースターエッグだったということがありました。それから、卵は止めてキャンディーにしたということがありました。

このイースターの日の決め方は、春分の後の満月の後の最初の日曜日ということになっています。ユダヤの暦は太陰太陽暦という月の満ち欠けと太陽の運行を組み合わせた暦ですので、現代の暦に合わせると少し手を加えなければなりません。そういうことで、イースターは毎年少しずれます。2027年は3月中にイースターがありますし、遅い年は4月の半ば以降になることもあります。今年度は、最初の主の日がイースターということになりました。

2. 朝には女性たちに現れ

さて、今朝与えられている御言葉は、金曜日にイエス様が十字架にお架かりになって息を引き取られて三っ日目の日曜日、週の初めの日、つまり日曜日の夕方のお出来事です。この日の朝、復活されたイエス様は、墓に来た女性の弟子であるマグダラのマリアにその御姿をお見せになりました。

マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネの4つの福音書において、最初に復活されたイエス様に会ったのはみんな女性の弟子たちでした。どうして女性たちだったのか？単純にイエス様の墓に行ったのが女性の弟子たちだったからでしょう。でも、そこには意味があったと思われます。彼女たちには、心残りがありました。金曜日の午後の三時頃に十字架の上で息を引き取られたイエス様でした。金曜日ですから、日没になっては安息日の土曜日が始まってしまいます。そうなる何とも出来ません。ですから、日没までにイエス様の遺体を引き取り墓に納めなければなりません。時間がありませんでした。イエス様のご遺体は十字架から引き下ろされ、ニコデモとアリマタヤのヨセフという人によって引き取られ、墓に納められました。しかし、とにかく時間がありませんでしたので、ご遺体に対して何もしてあげられなかったという思いが女性たちにはありました。それが心残りでした。それで、安息日が終わる日曜日、まだ暗いうちに女性の弟子たちはイエス様のご遺体が納めてある墓に行った。そして、復活されたイエス様に会ったのです。「女子どもの言うことなんて信じられるか」と言われるような時代です。しかし、復活されたイエス様は、最初にそのような女性たちに自らの姿を現されました。弱い者、小さい者、軽んじられている者を神様は大切にしてくださるということでしょう。

3. ユダヤ人を恐れて

一方、男の弟子たちはどうだったのでしょうか？それが今朝与えられた御言葉が告げていることです。聖書は正直に「弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた」と記しています。彼らは恐れていたのです。ユダヤ人達が自分たちに何かをするのではないかと恐れていたのです。自分たちが先生と慕い、救い主と信じ、ガリラヤで出会ってから3年間、ずっと付き従ってきたイエス様が捕らえられた。そして、十字架につけられて殺されてしまいました。ひょっとすると、イエス様の仲間だということ自分たちも捕らえられてしまうのではないか。そのことを彼らは何より「恐れて」いたのです。この家に隠れていたって危ない。そう思ったので、彼らは「自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた」のです。誰かが訪ねてきても、いない振りをしてしよう。そう決めていたでしょう。これからどうすれば良いのか、自分たちはどうなるのか、さっぱり分かりません。互いに言葉を交わすこともなく、じっとしたまま金曜日が過ぎ、土曜日が過ぎ、日曜日でも過ぎようとしていました。

4. 真ん中に立ち「あなた方に平和があるように」

その時です。復活されたイエス様が現れました。「真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。」と聖書は告げます。おかしいですね。鍵はしっかりかけたはずですが、復活されたイエス様は、そんな扉なんて全くものともせず、弟子たちがいるところに入ってきました。そして「あなた方に平和があるように」と告げられました。どういうことでしょうか？復活されたイエス様は、確かに体をもって復活されたのですが、その体は私達と同じタンパク質で出来ているこの体ではなかったということでしょう。もし同じなら、壁や戸をすり抜けてくることなど出来るはずありません。そして、大切なことは復活されたイエス様が弟子たちに告げられた言葉です。「あなたがたに平和があるように」と、イエス様は告げられました。しかも 19 節と 21 節で繰り返しています。復活されたイエス様が最初に弟子たちに告げられた言葉、しかも繰り返して告げられた言葉。それが「あなたがたに平和があるように」でした。この復活のイエス様が告げられた言葉が、今朝私共にも告げられています。「あなたがたに平和があるように」これは色々な翻訳が出来ます。「平安があなたがたにあるように」、あるいはもっと短く「平安あれ」とか「安かれ」とも訳せます。

復活されたイエス様が弟子たちに告げられた言葉は「平安あれ」「平和があるように」でした。それはこの時、弟子たちは恐れていたからです。ユダヤ人達に自分たちがイエス様の仲間であることが分かっけてしまい、捕まってしまうかもしれないと彼らは「恐れて」いました。だから復活されたイエス様は「恐れることはない」という意味で「安かれ」「平和があるように」と告げられたのでしよう。

5. 十字架のしるし

しかし、それだけでしょうか？復活されたイエス様が告げられたこの「安かれ」「平和があるように」という言葉には、もっと深い意味があります。思い出してください。木曜日の夜、ゲツセマネの園でイエス様が捕らえられたとき、弟子たちはどうしたのでしょうか？逃げたのです。捕らえられるイエス様を置いて、みんな逃げた。イエス様は捕らえられ、裁きを受け、十字架につけられました。それ以来、弟子たちは怖くて怖くて仕方がなかった。それで彼らは部屋に鍵をかけて締め切っていた。そこに復活のイエス様が来られました。弟子たちはすぐに喜んだのでしょうか。聖書には記してありませんけれど、この時のイエス様の手の向きや顔つきが大事です。手の甲を弟子たちに見せて、うらみ深そうに現れたらどうでしょう。「うらめしやー」になってしまいます。そんな言葉を聞けば、きっと弟子たちは恐れおののいて「ぎゃー」となってしまったでしょう。しかし、復

活のイエス様が告げられたのは「安かれ」「平和があるように」でした。聖書は「**そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。**」と告げています。イエス様は手のひらを見せ、脇腹を見せ、「安かれ」「平和があるように」と言われたわけです。両手を広げて、「さあ、見なさい。わたしはあの十字架につけられて死んだイエスです。よく見なさい」と告げられた。この時のイエス様の顔は、聖書には記してありませんけれど、晴れ晴れとしていたに違いありません。そうでなければなりません。青白い顔でもダメです。イエス様はこの時「あなたたちは私を見捨てて逃げましたね。そして、私は十字架につけられて死にました。しかし、今、こうして復活しました。肉体の死は、わたしをどうすることもできませんでした。だから、あなたたちは何も心配することはありません。わたしはあなたたちを恨んでもいないし、嘆いてもいません。十字架の死は、過ぎ去りました。私を見捨てたことも、裏切ったことも、全て、赦されています。だから、大丈夫。平安あれ。」そう、イエス様は弟子たちに告げられたのでしょうか。だから、弟子たちは喜んだ。弟子たちを責めるような素振りも微塵もなかった。全てを赦されたイエス様、死さえも滅ぼして復活されたイエス様を見て、弟子たちは喜び喜んだんですね。

6. 罪の赦しを与える権能

そして、「安かれ」「平和があるように」と告げられた復活されたイエス様は、この時一切の罪が赦されたことを弟子たちに告げただけではありませんでした。イエス様は弟子たちに「**父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。**」と告げたのです。弟子たちは、イエス様の復活を喜んで、「あ～良かった、良かった」では終わったわけではありませんでした。ここが大切なところです。復活のイエス様と出会った弟子たちは、新しい命、復活の命に招かれました。そして、その新しくされた弟子たちは「新しい使命」に生きる者となったのです。この二つの事柄、復活のイエス様に出会って一切の罪を赦されるということと、新しい使命に生きるということは別々のことではありません。少なくとも、復活のイエス様と出会ったイエス様の弟子たちにとっては、別々のことではありませんでした。イエス様の弟子たちは、この時からイエス様によって「遣わされた者」となりました。この「遣わされた者（アポストロス）」という言葉が日本語で「使徒」と訳される言葉です。

では、弟子たちは何のために遣わされたのでしょうか？まずは「父なる神様がイエス様を遣わされたように」と聖書は告げています。これは、イエス様は最初から最後まで父なる神様のみ心に従って歩まれましたから、弟子たちはイエス様の御心に従う者として遣わされるということでしょう。

自分勝手、好きなように生きるということではなくて、イエス様の御心、神様の御心というものをしっかり受け止めて、これに従う者として生きるということです。それはもっと具体的に言えば、「イエス・キリストは神の御子です。十字架に架けられて死にましたが、三日目に復活しました。この方を信じるならば、あなたの罪は赦されます」という福音を人々に伝える。そのために遣わされるということです。12使徒達は、イエス様の復活の証人として遣わされていくことになりました。

更に23節では「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」と告げられています。弟子たちは、ただ口で「罪の赦し」を伝えるだけではなくて、実際に「罪の赦しを与える権能」をこの時イエス様から与えられました。これは凄いことです。使徒達以来、キリストの教会はこの権能を保持し、伝えていく者として立ち続けてきました。これは、具体的に言えば「洗礼を授ける権能」であり、今日もこの後で行われます「聖餐を執行する権能」です。キリストの教会とは、どんなに小なりと言えども、この権能をイエス様から、神様から与えられている存在です。地上におけるどんなに大きな組織にも団体にも、どんなに豊かな富を持っていたとしても、キリストの教会以外にこの権能は与えられておりません。ここに私共の本当の価値があり、誇りがあります。キリストの教会というものは、そこに集う者たちが仲が良いとか、優しいとか、それはそれなりに大切ではありますが、本当に大切なところは、他のいかなる組織や団体にも与えられていない権能、「罪の赦しを与える権能」が与えられているというところにあります。このことに比べれば、立派な会堂があるとか、パイプオルガンがあるといったことは、実につまらないことです。

7. 聖霊を受けよ

そして、復活されたイエス様はこの「罪の赦しを与える権能」を弟子たちに与える時に「**聖霊を受けなさい。**」と言って、聖霊を与えてくださいました。これも素晴らしいことです。 「罪の赦しを与える権能」は、キリストの弟子たち、つまりキリストの教会に与えられたわけですが、それはキリストの教会が勝手に使うことが出来るような権能ではありません。聖霊なる神様が働いてくださって、その人をキリストの教会と出会いを与えてくださり、その人にイエス様に対しての信仰が与えられます。この聖霊なる神様の御業の中で「罪の赦しを与える権能」は行使されていくということです。それが、キリストの教会は「キリストの体」であり「聖霊の宮」であるということです。そのことを復活されたイエス様は、ご自身の復活という驚くべき神様の御業によって弟子た

ちにお示しになりました。

先週申し上げましたように、もしイエス様が十字架の上で死んでしまって、復活がなければ、どうだったでしょう。弟子たちはこの時恐れたままだったでしょう。肉体の命を超えた命、復活の命があることも知らず、イエス様の十字架によって全てを赦していただいたということも知らなかったでしょう。そこに示された神様の愛も知らなかったでしょう。ローマ帝国という目に見える力の前に、イエス様もまた無力であったと思ったに違いありません。しかし、イエス様は復活されました。ローマ帝国という地上における最大の力と権威をもってしても、イエス様を消し去ることは出来ませんでした。確かに、彼らはイエス様を十字架の上で殺しました。これで全てが終わったはずでした。しかし、何も終わりませんでした。そこから始まりました。イエス様は復活され、その姿を弟子たちに見せ、罪の赦しの権能を与え、聖霊を与えられました。目に見えるいかなる権威よりも大いなるお方として、神様がおられることをはっきり示されました。ここにキリストの教会は誕生し、復活のイエス様の証人としてのキリストの教会が歩み始めることになりました。そして、キリストの教会がこの世界に告げ続けてきた言葉、それが「平和があるように」です。この世界はいつの時代でも、様々な不安や嘆きや悲しみがあります。死はなおも力ある者のように、人々の上に君臨しています。しかし、もう死はイエス様によって滅ぼされました。私共はイエス様の復活の命へと招かれています。父なる神様は聖霊なる神様を働かせ、人々に信仰を与え、そして神の平和を与えられます。この神の平和が世界に満ちるように、今、心を合わせて祈りを合わせたいと思うのです。

お祈りいたします。

恵みと慈愛に富たもう、全能の父なる神様。

あなた様は今朝、御言葉をもってイエス様が復活されたことを心に刻まさせていただきました。ありがとうございます。私共は目に見えるものが全てあるかのような思い違いをしばしばしてしまいます。そのような私共に向かって、改めて、肉体の死を超えた命があることを教えてくださいました。復活の命の恵みを既に受けている者として、私どもはイエス様の御心適う歩みを為していきたいと願います。聖霊を受けて、平和があるようにと出会う一人一人に伝えていくことが出来ますように。あなた様の救いに与る者を起こしてください。どうか、この世界をあなた様の平和で満たしてってください。

この祈りを私共の救い主、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン